

第百九十五話 日本の敗因について

大東亜戦争の敗因(少なくとも武力戦においては米英等に屈服)については、色々な視点から多々論ぜられ、百家争鳴の感がする。本メモランダムでも敗因を種々列挙(関連メモランダムの参照は割愛)している。これらには、根本的な要因と思われるものもあればマイナーな要因であると考えられるものもあるが、それらを俯瞰し、どう考えれば良いのかを考えてみたい。

1 様々な敗因論

(1) 国力に係る視点

- ・GNP10倍～20倍の敵との戦争は無謀
- ・科学技術力や工業生産力の懸隔

(2) 国家戦略に係る視点

- ・国家戦略の不在・不統一
- ・情報戦、宣伝戦、諜報戦等の軽視
- ・歪な政軍関係(統帥権、軍部大臣 etc)
- ・同盟戦略(同盟国家選定の要件は?、戦略調整)
- ・戦争終結戦略の策定(可能性の検証、和平機会の捕捉失敗)
- ・戦争相手に関する分析力不足(戦意、士気、国民性 etc)
- ・軍事戦力造成の方向性の妥当性

(3) 軍事戦略

- ・進軍限界の無視、国力以上の戦線拡大(多正面軍事作戦、初期作戦後の戦略の齟齬(内包矛盾の露呈))
- ・真珠湾攻撃の必要性に関する疑問
- ・現地の実情を無視或いは未掌握状態での作戦計画策定と遂行
- ・陸海軍の深刻な対立(統合戦略の欠如、大陸は陸軍、海は海軍との棲み分け意識)
- ・南方資源国内環送戦略の欠如 or 態勢不十分
- ・戦略、作戦や戦術変換の遅延(問題解決策力や新戦法案出力不足)
- ・過剰な精神主義を軍事に持ち込む愚

(4) 国民性・文化・風土等

- ・温情的人事 ・表面的妥協を是とする性向
- ・現状認識や戦果確認の不十分
- ・熱狂・扇動的国民性 ・独善的或いはお人好し
- ・強硬論や声望の大なる者の意見に引き摺られ或いは左右される性向
- ・言外の理に依拠(明快な命令・指示は?)

(5) その他

- ・真の国家的リーダーや補佐組織の不在(政・軍に通曉し、危機を克服し得る識能と気迫、統率力大)
- ・天皇助言重臣の存在感希薄

2 これらから見えてくるもの

- (1) 日本型システムの欠陥
- (2) 強かな国際政治に翻弄される国民性
- (3) 持たざる者の悲哀
- (4) 大勢に抗しきれずに悲劇に驀進

* 偏見と独断で例示した。これらの中には、改善されたものもあれば、今猶往時のままとも思える面もある。美点を伸ばしつつ、改善の努力を続けるべきだ。

(第百九十五話 了)